



美 唄

B i b o i

やつかいな病気

美唄三師会は昭和53年12月設立、会員相互の親睦と医療遂行のための相互協力を主目的として組織し、年1回の総会には勉強会を実施している。

1月26日(金)ホテルスエヒロ会議室において、パーキンソン病の最新治療について医師会担当で伊藤和則美唄労災病院神経内科部長を講師として行われた。

パ病は1817年ジェムス・パーキンソン氏によって発表された。安静時震えが起こる。歩行時に歩き始めるのが難しい。他の病気と症状が似ているので誤診が多いが、パ病症候群の85%はパ病で15%は抗うつ剤や胃病薬の服用者に多く、脳血管障害の人にも多く、元世界チャンピオンのカシアス・クレイの場合はボクサーのために、現役時頭部を数多く打たれたことが原因のひとつと思われるという。10万人中300人位発病、日本では10万人中95人程度が現在は100人になり高齢化の進む現在増加傾向にあり60歳位の発病者が多く、高齢と過労が原因ともいわれる。環境病であり、米国では麻薬常用若年者が多いためか、特にヘロインの場合若年でも多く発病しているという。バランスのとれた栄養と適度の運動に心がけることが大切とのことである。薬剤は研究の結果効く薬が出ているが副作用の強いものが多いので要注意とか。欧米では最近では外科的治療が行われているとかで、電気刺激、凝固療法などで治療の80%は外科治療であるそうである。日本では今のところあまり行われていないとか。現在のところ予防法が全くないという困った病気であるが、ニコチンが効果あるのか？不思議と煙草飲みには発病例が非常に少ないというのは面白いが、パ病を予防して肺ガンになっっては何もならない。(雨田 実記)